

平成 26 年度第 1 回外部評価専門部会 会議録

日 時 平成 26 年 9 月 12 日（金） 13 : 30～14 : 40

場 所 市役所新館 5 階会議室南側

議 題 (1)事業概要及び内部評価内容の説明について
①老人クラブ活動支援
②包括的支援事業（総合相談支援業務）
(2)部会による対象事業の選定について

出席者 高井伸二部会長、櫻田一雅委員、立崎享一委員、
小林博子委員、山端政博委員
(欠席委員 江渡恵美委員)

担当課 高齢介護課：長瀬課長、佐々木課長補佐、會津係長

事務局 沖澤課長、福島課長補佐、神係長、成田主任主査、鳥谷主任主査

会議内容

(1)事業概要及び内部評価内容の説明について

①「老人クラブ活動支援」について、高齢介護課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
山端委員	○60 歳以上だからといって、必ずしも老人クラブには入らない。60 代と 80 代が一緒のメニューというのでは、60 代は参加できない。年代別に 2 段階にするなど、やり方を変えないと、新規加入の減少は続いていくのではないか。
立崎委員	○農村集落では 70 歳くらいまでは現役で、老人クラブへの加入になじまない。わが町内会でも、加入者は年々少なくなり、また、やめる人も増えている。これからどうするのかについては、市で始めた地区担当制度との連携が必要だと思う。町内会のみならず、老人クラブとも連携してほしい。

櫻田委員	○どういった理由でこの事業を市で選んだのかを知りたい。また、年金をもらわないうちは、あるいは、体が元気で動くうちは、老人とは思わないだろうから、そのあたりが加入が少ない要因かと思う。
小林委員	○同じく、市でこの事業を選んだ背景を知りたい。また、やはり高齢者のみなさんが元気なことが、60代の加入減少要因ではなからうか。
高井部会長	○十和田市の人口の分布・推移から見ると、高齢者のうちの10%くらいしか老人クラブに絡んでいない。残りの90%はどうしているのだろうか、加えて、原則30人以上とかの人数ルールは適切なのだろうかと思う。単位クラブの年齢構成を調べ、うまくいっているところはどのようになっているかを分析すべき。また、昔ながらのやり方だともう魅力がないかもしれないので、新しい方策で高齢者を惹きつけてはどうか。 では、市のほうでこれを選んだ理由を。 ◆市長は、少子高齢化への対応について非常に関心が高いです。老人クラブについても、委員の方から実態やご意見を聴き、ご提言をいただくことで、さらに良い姿につなげようという意図でございます。
山端委員	○老人クラブという枠にとらわれずに、元気な老人を作っていくためにどのような活動を創造していくか、に視点を切り替えてはどうか。趣味やクラブという切り口、あるいは、元先生などを有効に使って子供にモノを教える、そういうところに市が補助を行ってほしい。

②「包括的支援事業」について、高齢介護課から事業の概要等に関する説明があり、下記のとおり質疑応答が行われた。

質疑委員	質疑と応答
櫻田委員	○各町内会にいる民生委員との連携、社会福祉協議会との連携はどうなっているか。 ◆民生委員に対して、一人暮らし高齢者の名簿を渡しています。この名簿に限らず、民生委員が相談を受けた場合は、包括支援センター又は福祉課へ連絡の上、民生委員が来たり、又は委員と本人が来たり、あるいは包括支援センターが出向いたりしています。社会福祉協議会については、市の委託事業を通じて連携を図っています。
山端委員	○こちらの事業についてもまた、どういった理由で評価の対象としているのか。他の自治体では民間委託をしている例もあり、十和田市は市の1か所で行っている。現場に対する重圧はすごいものがあると思うが。 ◆先ほどの老人クラブと同様、高齢者に対する政策に関してより良い

	<p>姿を目指しており、そのために委員の皆様からご意見をいただきたい、という意図でございます。</p> <p>○包括支援センターの数は、相当数増やすべきだ。役所がこの仕事を負うというのは非常に大変だと思うので、事業者に委託してはどうか。そしてその場合は、事業者による抱え込み等が起きないように、行政がしっかり監視するべきだと思う。</p>
立崎委員	○現在は包括支援センターが旧十和田湖町のほうに設置されているのだが、利便性向上のために、旧十和田市の側に置いてはどうか。
山端委員	○包括支援センターは、早く民営化してはどうか。この仕事は役所に相当負荷がかかっているのではないかと思うのだが。
小林委員	○私もかつてお世話になったことがあるが、この仕事は大変だと思う。職員の方の負担を減らしながらやっていけばいいのだが。
高井部会長	○相談が1日あたり何件で、1件に対してどのくらいの時間を要しているとか、今委員たちが言われている切実さを感じられるようなデータを出してくれればと思う。

(2)部会による対象事業の選定について

委員による協議の結果、とわだ産品販売戦略課の「農畜産物のブランド化」と商工労政課の「中心市街地活性化事業」に決定した。

- その他
- ①本日質疑応答が行われた市側提案2事業について、9月19日（金）までに事前評価表への記入と事務局への提出を依頼した。
 - ②本日部会において選出した2事業について、説明資料の作成を担当課に依頼し、来週中に委員の皆様にお届けすることとした。
 - ③次回の会議は9月26日（金）午後1時30分から議会会議室で行い、市側提案2事業についての最終評価と、部会選出2事業について事業概要及び内部評価内容の説明を行うこととした。